

企画展

写真で観る かさまつの歩み

【会期】

9月13日(火)～10月23日(日)

【開館時間】

午前9時～午後5時

【休館日】

月曜日、祝日の場合はその翌日

【入館料】 無料



歴史民俗資料館だより

鳶口とびくち(鳶とび)

鳶口は櫂こしの材は強く弾力性があるもの、の櫂の先に鳶の口ばしに似た形の鉄製の鉤をつけたものです。櫂先の大小、形態の違いによって、大鳶、中鳶、小鳶、刺鳶などがあります。

江戸時代から明治初期の消火活動は、破壊消防で火を消すことよりも、飛び火を防ぎ、風下家屋を破壊して延焼を喰い止めることを優先しました。町火消しの道具として、鳶口は大切なもので、短いものと長いものがあり、出動のとき打ち壊し用として持って出ま

した。

鳶口に類似するものには手鉤てづかがあり、櫂先を材木に打ち込み、あるいは櫂子にして木材を移動したり反転したり、米俵等の運搬や引き寄せに使われました。

この作業は重量物を取り扱う危険なものですから、操作には熟練を要しました。また、鳶口の櫂のよしあしも重要で、櫂先の材木も銅製のものとは金製のものがああり、自分専用のもので持ち、絶えず手入れをしていました。

一方、明治時代になると各地に鳶口を専門に製作する鍛冶屋職人も増えて、評判の高い鍛冶屋のところには、遠方からの注文

が絶えなかったといえます。

現在では、鳶職人というところ所業者のことをいいますが、本来は鳶口を扱う人々の総称でした。

資料館では、民俗資料として明治から昭和十年頃まで、消防組、警防団、笠松消防団で使われていた鳶口を展示しています。



ごみ減量化コーナー



「紙」は大切な資源です!

家庭用燃えるごみの中には、新聞紙・雑誌・ダンボール・チラシ(ダイレクトメール、広告)・紙製容器包装がそのまま捨てられていることがあります。

しかし、それらの紙は「ごみ」ではありません!!!



町の古紙類の収集日や各学校や子ども会が行う資源集団回収に出しましょう!

1人一日100グラムごみ減量運動実施中

たった100グラムの減量でも、全市民で取り組めば、家庭から出るごみを、年間810トン・約2割減らすことができます。